

2026(令和8)年度  
学校推薦型選抜(指定校B/実績評価型)  
小論文  
(時間 60分)

下の新聞記事を読み、「人工知能(AI)時代の仕事」について300字以上600字以内で論じなさい。その際、次の①、②、③のプロセスに従って議論を展開しなさい。

- ① AIの導入が職に与える影響について、米国を対象にした2つの研究から明らかとなったことは何か。
- ② AI導入後も人が介在し続ける職、言い換えるとAIに置き換わらない仕事で起きている現象はどのようなものか、説明しなさい。
- ③ 上記の①、②を踏まえて、「AI時代の仕事」について、あなた自身の考えを論じなさい。

なお、誤字・脱字、常用漢字不使用は減点の対象となるので注意しなさい。また、指定された文字数に満たない場合は、評価の対象外になります。

### 最新研究が示す AI の仕事への影響

人工知能(AI)は仕事を奪うのか。この問いについて、これまで様々な予言や予測がなされてきたが、実際の影響を計測した研究は極めて限られていた。

しかし、最近になりいくつかの実証研究が発表され始めた。8月に発表された米国を対象とした2つの研究では、実際にAIによって職が減少し、その減少は20歳代の若手社員に集中していることが示された。

一つ目は米国での月次の給与支払事務データを用いた研究だ。それによると、AI導入の影響を受ける企業ほど、生成AIが普及し始めた2023年ごろから、加速度的に20歳代の職が大きく減少していた。他方、同じ企業内でも40歳代以上には影響がない。この傾向はプログラマーだけでなく、顧客対応、営業、マーケティング職など、幅広い職種で確認されている。

もう一つは、ビジネス特化型のSNS「リンクトイン」などのデータを用いた研究だ。企業が生成AIを本格的に導入し始めた時期を境に、若手社員の職が減少し、その減少の大半は離職や解雇ではなく、採用の減少によることが明らかになっている。

しかし、細かく見ると興味深い傾向が浮かぶ。前者の論文では、AIにより自動化される職で若年層の職が減少する一方で、AI導入後も人が介在し続ける職ではむしろ職の増加が示されている。

この結果はどのように理解できるだろうか。注目されるのは、ここ数年、職場単位の研究で実証されてきた「AIによる生産性の収斂（しゅうれん）」と呼ばれる効果と、整合的であることだ。

コールセンターにAIを導入した研究では、熟練者の生産性に変化はないが、初心者ほど大きな改善が見られた。AIは60点の人を85点に引き上げるが、既に85点の人にはあまり影響を与えないという結果だ。同様の結果は、米国の大手戦略コンサルティング企業、日本のタクシー乗務員、米国のフリーライターなどを対象にした実験でも確認されている。

これらが示すのは、AIに置き換わらない仕事の場合、むしろAIにより人間の労働の生産性が上昇し、その上昇の恩恵は低スキルの労働者に集中するということだ。

では、そのようなAIの影響は企業組織や、その運営にどう影響するのだろうか。

すぐに考えられるのは、採用と人的資本投資への影響だろう。需要予測やマニュアル確認などはAIが60点を85点にしてくれる。それならAIが代替不可能なスキルを持つ人材の採用を強化したり、そのようなスキルを訓練したりすることがより重要になる。

AIにより皆が85点になり成果のばらつきが減るならば、組織の給与体系や管理方法が変わるだけでなく、企業の事業範囲も変わるだろう。これまでは外注する必要があった仕事も、管理コストが低下しより自社に合った形で内製化できるかもしれない。

このように考えると、AIの受容は単に関連部門の技術的な変化ではなく、人事や戦略を含めた経営戦略全体に及ぶと考え、戦略的に受容することが重要になるだろう。

（日本経済新聞 2025年9月26日朝刊 エコノミスト 360° 視点）